



東郷小だより

第 1 2 号

平成 30 年 7 月 10 日

東郷小学校 校長室

人がいても見えません◆ ◆トラック運転席の近く



7月3日(火)、愛知警察署とトラック協会にご協力いただき、交通安全教室を行いました。トラックの死角体験(=上写真)や左折巻込み体験(=下写真)、横断歩道の通り方など、子どもたちは体験を通して、交通安全について学習することができました。

「交っうあんぜんについて、すごくわかりやすく、おしえてもらいました。そのおかげで、ぼくも交っうあんぜんに気をつけて、交っうルールをちゃんとまもろうと思いました。(2年1組 中平歩武さん)」



「わたしは、交通安全教室をやって、トラックの近くにいるとあぶないなと思いました。横断歩道の通り方は知らなかったです。家に帰って、さっそく家族に教えてあげました。これからも交通安全に気をつけようと思いました。(4年2組 中野いろりさん)」



守るための工夫を考える スマホ・ネットのルール

昨年5月の内閣府調査(9歳以下の子どもをもつ保護者対象)によると、ゲーム機、スマートフォン、学習用タブレット、子ども用携帯電話の他、何らかの機器でインターネットを利用している子どもは約4割。その内、1人で操作することがある子どもは7割を超えていると言われます。また、インターネットを使わせていると回答した保護者の4人に1人が「注意してもインターネットをやめない」と答え、インターネットにかかわる問題の低年齢化は現実のようです。

- 夜遅くには連絡をしない。
- ネットで友達の悪口を書かない。
- ネットで相手の嫌なことをしない。
- 不適切な写真をアップしない。
- スマホを使いすぎない。

私たちは、子どもたちにスマートフォンやゲーム機を持たせるときに、このようなルールをつくります。しかし、これで子どもたちはルールを守ることができるのでしょうか。「ルールをつくって終わり」ではなく、そのルールをどうすれば守ることができるかという発想で、「ルールを守るための工夫」を考えることも重要です。例えば、「ゲームは1日1時間まで」というルールは、なかなか守ることができません。しかし、「ゲームは1日1時間までを守るための方法」を子ども自身に考えさせると、「終わる10分前にアラームを鳴らす」「(1日1時間だといつゲームをしてもよいことになるので)ゲームは夜7時から8時にする」「1週間守ることができたら次の週末は1時間プラスする」といった工夫が出てきました。このように、そのルールをどうすれば守ることができるかという発想で考えると、「守ることのできるルールづくり」が可能となります。

子どもたちは、いつか自立し、私たちの手から離れていきます。「自分でルールを守っていく力」を育てていく必要があります。

参考：総務省「インターネットトラブル事例集(平成29年度版)」

月刊教職研修 2018年7月号「子どもの『スマホ・ネット』トラブルを学校全体で防ぐ3」